

# タイトル：フロネーモスたち（心を研ぐ人）

## 目次

序章 フロネーモスと偉大な飛躍 = パラダイム・シフト  
偉大な飛躍期の中で、フロネーモス

## 第 部 イノベーションの科学への前提（プレサポジション）へ

### 第 1 章 イノベーションを導く人 = フロネーモス

純粹基本的に異なる 4 つの思考、思考は力、思考の発展心を研ぐ、奇妙な穴をふさぐために、  
精神と物体・文化、イノベーションとイノベーションの科学、イノベーションと進化、イノ  
ベーションの意味

## 第 部 イノベーションの科学、フロネーモスの出現

### 第 2 章 フロネーモスの出現

タレスの思考の仕方のその後、フロネーモスとしてのピタゴラス

### 第 3 章 フロネーモスのもとを考察しだしたソクラテス

歴史家ツキジデスが着手しだしたこと、フロネーモスのもとを問いただしたソクラテス：アテ  
ネの窮地、イノベーションの科学：ソクラテスの第二の航海、フロネーモス：ソクラテスが  
おこなったこと、ソクラテスが求めたフロネーモスをもたらす徳、ソクラテスとソクラテス  
のシチズン、ソクラテスの弟子のプラトンと孫弟子アリストテレス、プラトンとアリストテ  
レスが発展させたイノベーションの科学

### 第 4 章 イノベーションの科学の萎縮の時代

勇気の大事さ、アレキサンドリアで迷い込んだイノベーションの迷路（成熟科学と社会の錯  
覚）科学の専門化と精密化 = イノベーションの迷路？ アレキサンドリア後期（ローマ）に  
おきた墮落 = 宗教化

### 第 5 章 イノベーションの科学の再生

ヨーロッパの知を胎動させたイスラムの知、欧州でのイノベーションの科学の再萌芽、コペ  
ルニクスの転回の意味、ギリシアを越えた欧州の科学、ニュートンが発明した近代思考、イ  
ノベーションの科学としての近代思考とその限界

### 第 6 章 日本に起きたフロネーモス（科学としての思考）

森有礼が記した初の日本のフロネーモス、日本の知性を巡る両極端、中華・小中華思想人の  
日本人の評価、家康の蔵書は8千冊、江戸の学、心を研ぐ、石田がもとめた心を研ぐ道、ド  
ナルド・キーンが見た江戸の科学、場の発展：江戸での場とギリシアでの場の比較、江戸人  
は生涯旅人、中国とのちがい

### 第 7 章 現代のイノベーションの科学

あらたな前提、時間と精神の加上、フロネーモスは生きた時間概念を持つ必要がある、研究  
者が物質の奥で直面した理解する精神、物から‘もの’や‘こと’へ、ポーアのパラダイム

## 第 部 フロネーモスを育む教育

### 第 8 章 ソクラテスが始めた科学的教育

教育とは、イノベーションと教育、フロネーモス教育のルーツ、ギリシアの教育、ソフィス  
トの教育とソクラテスの教育、産婆の術、プラトンとアカデミー、アリストテレスのフロネ  
ーモス教育

- 第9章 ヘレニズムとローマでの科学教育の衰退  
ヘレニズムの教育、フロニーモス教育の退化・ついには墮落＝宗教化、ローマで確立された自由人の教養、フロニーモス教育の壊滅・キリスト教との妥協
- 第10章 フロニーモス教育への再出立  
教育の世俗化への再出立、パブリック・スクールと一般勉学所、グレッシャムとグレッシャム・カレッジ、グレッシャム・カレッジと近代アカデミーの発足、近代のソフィストの大学
- 第11章 日本でのフロニーモス教育の発展  
日本のフロニーモス教育の原点、戦国時代に基礎ができた日本的フロニーモス教育、昌平坂学問所、フロニーモス教育をになった郷学と私学、江戸は社会が人作りにコミットしていた、江戸にでたインビジブル・カレッジ、江戸の教師はソクラテス、偉大な飛躍期と思考、江戸の教育の成果
- 第12章 明治以降のフロニーモス教育  
明治は江戸のフロニーモス教育を継承、禅と哲学、大正教養主義と熱病、デミングの思考を評価できた大正教養主義人、日本にでたデミングのフロニーモス、「戦後という国家」の終焉、日本のフロニーモス教育の退廃
- 第13章 現代のフロニーモス教育  
現代のフロニーモス・哲人の条件、21世紀のフロニーモス教育の条件、21世紀のフロニーモス教育へ、フロニーモス教育の今後

第 部に代えて

終章